

1号機

現時点での特記事項なし

2号機

現時点での特記事項なし

3号機

現時点での特記事項なし

4号機

現時点での特記事項なし

5号機

現時点での特記事項なし

6号機

・6号機使用済燃料プール(以下、「SFP」という。)については、使用済燃料プール冷却浄化系(以下、「FPC系」という。)にて冷却しているが、6号機残留熱除去系(以下、「RHR系」という。)B系の圧力抑制室側吸込弁のシートリーク量調査のため、SFP冷却をFPC系からRHR系に切り替え、調査後にRHR系からFPC系に戻す。

SFP冷却切り替え予定は以下のとおり。

1月9日午前9時から午後6時(約9時間停止)

・FPC系からRHR系に切り替え、同日中にFPC系に戻す。

・冷却停止中のSFP水温度上昇は約1.7と評価(温度上昇率:約0.188/h)。

1月8日午後1時現在のSFP水温度は、19.9。

1月9日実施予定の6号機SFP冷却切り替えは、作業工程の見直しのため延期。

・6号機残留熱除去系(B)の圧力抑制室吸込弁(MO-E12-F004B)手動操作ハンドルの軸の折損については、1月8日に、手動操作ハンドルの軸を交換し、1月10日に動作確認を行い、異常がないことを確認したことから、同日11時18分に6号機残留熱除去系(B)が動作可能な状態に復帰したと判断。

水処理装置および貯蔵設備の状況

【タンクパトロール結果】

現時点での特記事項なし

【H4、H6エリアタンクにおける水漏れに関するサンプリング結果】

現時点での特記事項なし

【地下貯水槽に関する水のサンプリング結果】

現時点での特記事項なし

【セシウム除去設備】

現時点での特記事項なし

【多核種除去設備(ALPS)】

・1月9日午後1時50分頃、既設多核種除去設備建屋内においてHIC(高性能容器)排水ラインフランジ下部に水溜まり(漏えい範囲:約15cm×約15cm×深さ約1mm)があることを協力企業作業員が発見。なお、漏えいした水は堰内に留まっている。

その後、当社社員が現場を確認したところ、吸着塔からHICへの排水ライン下流側フランジ部の滴下は停止していたが、フランジの漏えい防止カバー内に水が溜まっており、更にカバーに破れが生じていたことから、水溜りはカバーの中に少量溜まっていた水が滴下したものと判明。念のため、フランジ部の増締めを行い、カバーの取り替えを実施。滴下した水は拭き取りを完了。

滴下した水の分析結果は以下のとおり。

試料採取日 1月9日

全放射能 :4.0×10⁴ Bq/L

セシウム134、セシウム137については、採取量が少なく分析ができないため至近の既設多核種除去設備入口の分析結果で評価

至近の既設多核種除去設備入口の分析結果

セシウム134 :4.8×10² Bq/L

セシウム137 :6.4×10³ Bq/L

【増設多核種除去設備】

現時点での特記事項なし

【高性能多核種除去設備】

現時点での特記事項なし

【淡水化装置】

現時点での特記事項なし

【RO濃縮水処理設備】

現時点での特記事項なし

【RO濃縮廃液タンク水処理設備】

現時点での特記事項なし

【その他】

現時点での特記事項なし

サブドレン他水処理施設

以下、排水実績のみ記載。

< 排水実績 >

- ・一時貯水タンク F 1月1日午前10時3分～午後4時11分。排水量 915 m³
- ・一時貯水タンク G 1月3日午前10時1分～午後4時24分。排水量 954 m³
- ・一時貯水タンク H 1月5日午前10時21分～午後5時。排水量 993 m³
- ・一時貯水タンク J 1月7日午前10時10分～午後4時50分。排水量 995 m³
- ・一時貯水タンク K 1月9日午前10時18分～午後4時13分。排水量 882 m³。

< 特記事項 >

現時点での特記事項なし

地下水バイパス

以下、排水実績のみ記載。

< 排水実績 >

< 特記事項 >

現時点での特記事項なし

【1～4号機サブドレン観測井のサンプリング結果】

< 特記事項 >

現時点での特記事項なし

【1号機放水路のサンプリング結果】

< 特記事項 >

現時点での特記事項無し

その他

【陸側遮水壁】

現時点での特記事項なし

【雑固体廃棄物焼却設備】

現時点での特記事項なし

【窒素封入設備】

現時点での特記事項なし

【その他設備の不具合・トラブル】

現時点での特記事項なし

【けが人・体調不良者等】

現時点での特記事項なし

【その他】

現時点での特記事項なし